

古地磁気データによる過去の平均的な磁場構造の復元

Reconstruction of the mean past geomagnetic field by use of paleomagnetic data

河野 長 [1]

Masaru Kono [1]

[1] 岡山大固地研

[1] Inst. for Study of Earth's Interior, Okayama Univ.

これまで我々は、ガウス係数が磁場の各成分にどのようにマッピングされるか、特に瞬時の値でない古地磁気データにおいて平均値や分散がどうなるかを検討してきた (Kono and Tanaka, JGG, 47, 115-130, 1995; Kono Hiroi, EPSL, 139, 251-262, 1996; Kono, JGG, 49, 615-631, 1997; Kono, PEPI, 103, 313-327, 1997; Kono, Tanaka, and Tsunakawa, JGR, in press, 1999)。
この講演では、非線形の対応関係を持つ古地磁気データのインヴァージョンを最大ゆう度法によっておこなう。

これまで我々は、ガウス係数が磁場の各成分にどのようにマッピングされるか、特に瞬時の値でない古地磁気データにおいて平均値や分散がどうなるかを検討してきた (Kono and Tanaka, JGG, 47, 115-130, 1995; Kono Hiroi, EPSL, 139, 251-262, 1996; Kono, JGG, 49, 615-631, 1997; Kono, PEPI, 103, 313-327, 1997; Kono, Tanaka, and Tsunakawa, JGR, in press, 1999)。
この講演では、非線形の対応関係を持つ古地磁気データのインヴァージョンを最大ゆう度法によっておこなう。